後援 愛知県 / 名古屋市

Concorso d’Eleganza
Coppa Centro Giappone

自動車の昨日、今日、明日
in Hisaya-odori Park Project
１０/２３/２０２２

コンコルソ・デレガンツァ コッパ･チェントロ･ジャッポーネの開催は、
自動車産業や航空産業を中核とする卓越したものづくり産業の集積地である中部圏独自の魅力を生かし、
「ものづくりの街名古屋」として都市力の向上や産業観光の発展に寄与するものです。

名古屋市が策定した「文化芸術推進計画２０２５」の趣旨に基づき
自動車に纏わる高潔な歴史や文化芸術への理解を深める場として機能させ、
栄、矢場町、久屋大通周辺エリアにおける街の再開発事業や公園の再整備事業と連携し、
世界へ誇れる自動車コンテンツの構築や、最先端のインフラ事業の整備等々、
かけがえのない新たな価値の創造を目指します。

名古屋 栄の緑豊かな都市公園「久屋大通公園」の中に、
類稀な歴史的なクラシックカーやカーボンニュートラルの時代に相応しい
次世代のクルマ達が一同に会するこの機会は、
１００年に一度の自動車産業の大変革に、
温故知新を感じさせる自動車文化を通して「過去、現在、未来」に向き合う試みです。

※ ペブルビーチ・コンクール・デレガンス

Venue

イベント会場

WRCカー・デモラン会場（関連資料12.13ページ）

※名城公園南遊園

パレード・ラン発着会場（関連資料5.10.11ページ）

※名古屋市役所
※愛知県庁

※レイヤード久屋大通パーク　テレビトーヒロバ
※中部電力MIRAIタワー下
※中部電力MIRAIタワー前広場
※レイヤード久屋大通パーク　ミズベヒロバ
※レイヤード久屋大通パーク　ラルフローレン前

コンクール・デレガンス会場（関連資料7.14ページ）

※レイヤード久屋大通パーク　ケヤキヒロバ
※レイヤード久屋大通パーク　シバフヒロバ

コンクール・デレガンス会場（関連資料8.15ページ）

本イベントは、様々な運営団体や企業とジョイントし、
久屋大通公園ではコンクール・デレガンス、名古屋城を背景とする
WRCラリーカーによるエキシビション走行、１９３０年代の歴史的建造物
である名古屋市役所を出発して名古屋中心部を走り、
同じく歴史的建造物である愛知県庁にゴールするラリーなど様々なコン
テンツを用意し都市部で開催するクラッシクカーイベントとしては
唯一無二のパッケージを実現し、アジア最大級のスケール感のカーイベ
ントを栄の街で目指します。

会場は北から名城公園南遊園、久屋大通公園のケヤキヒロバ、
シバフヒロバ、テレビトウヒロバ、オアシス２１、ラシック・パサージュ
等々の広範囲に分散させる事により、人々の賑わいを、Park-PFI事業の
事業者店舗や周辺商店街、繁華街への誘導動線として機能させ回遊性、
滞在性を実現するイベントを目指します。

※ラシック パサージュ

※オアシス21　緑の大地

フェラーリ・ジャパン特設会場（関連資料9.17ページ）

コンクール・デレガンス会場（関連資料9.16ページ）

Coppa Centro Giappone
コッパ チェントロ ジャッポーネ

チェントロ（Centro）とはイタリア語で中心という意味です。イタリアを訪れると、どこの都市にもCentro という標識があり、その矢印に従って行けば、自ずと街の中心に到着します。そこには広場があり、人が集まるところです。名古屋の中心にも久屋大通公園があり、北から順番に、外堀通り、桜通り、錦通り、広小路、若宮大通り、と、名古屋の中心と東西を結ぶ5本の道にもかかっており、また地下鉄の路線と駅も3つ、備えております。それほど南北に長い構造を持っており、人々が集まる場所として、再開発され、いっそう魅力的になりました。

観光という視点から名古屋を見ると、魅力に乏しいと言われてきましたが、久屋大通公園には、そんな風評を吹き飛ばすポテンシャルがあります。南北に長い帯状の公園で、いくつかの区域に別れ、それぞれの部分に個性があります。

これまで、コッパ・シリーズは、東京国立博物館、京都国立博物館、京都市美術館などの美術館や博物館、また京都の平安神宮、下鴨神社、北野天満宮、南禅寺などの寺社仏閣、また京都の円山公園、東京・汐留イタリア街の西新橋公園、名古屋のノリタケの森などの緑地や公園を舞台に開催してきましたが、久屋大通公園では、その立地条件を活かして、これまでにない、カレイドスコープのように多彩な展示をして、訪れる人に楽しんでいただきたいと思います。
思えば、今から90年前の1932年、当時の名古屋市長大岩勇夫は「名古屋市が日本のデトロイトとして自動車の都市たらんことに切望する」と述べて、名古屋の産業を結集して、自動車の開発に乗り出しました。大型の乗用車を実際に30台ほど作りましたが、採算が見込めず、計画は中止となりました。しかし、その後の歴史では、トヨタ、スズキ、ホンダ、ミツビシなどの自動車産業が発展し、名古屋を中心として、東海地方は日本のデトロイトとなり、大岩名古屋市長の夢は実現したと言っても良いでしょう。大岩名古屋市長は、博覧会も催しましたが、今回のコッパ・チェントロは、万国古今自動車博覧会と言ってもいいほど世界各国の多彩なクルマたちを集めます。ウェブ上の仮想の車でなく、リアルな車に触れてもらいます。

それは、ノスタルジーを超えた、現在過去未来に広がる温故知新の機会となることでしょう。

※ コッパ・フィオラバンティ コンコルソ・デレガンツア

COPPA Fioravanti
"Concorso d'Eleganza"

コッパ フィオラヴァンティ コンコルソ・デレガンツァ

2016年3月13日日 ノリタケの森・名古屋

主 催 ／GALLERIA AMICA
共 催 ／auto galleria LUCE
後 援 ／イタリア総領事館／名古屋日伊協会／Ferrari spa／Fioravanti srl
運 営 ／コッパ フィオラヴァンティ実行委員会

GALLERIA AMICA　auto galleria LUCE

Concorso d'Eleganza
コンコルソ・デレガンツア

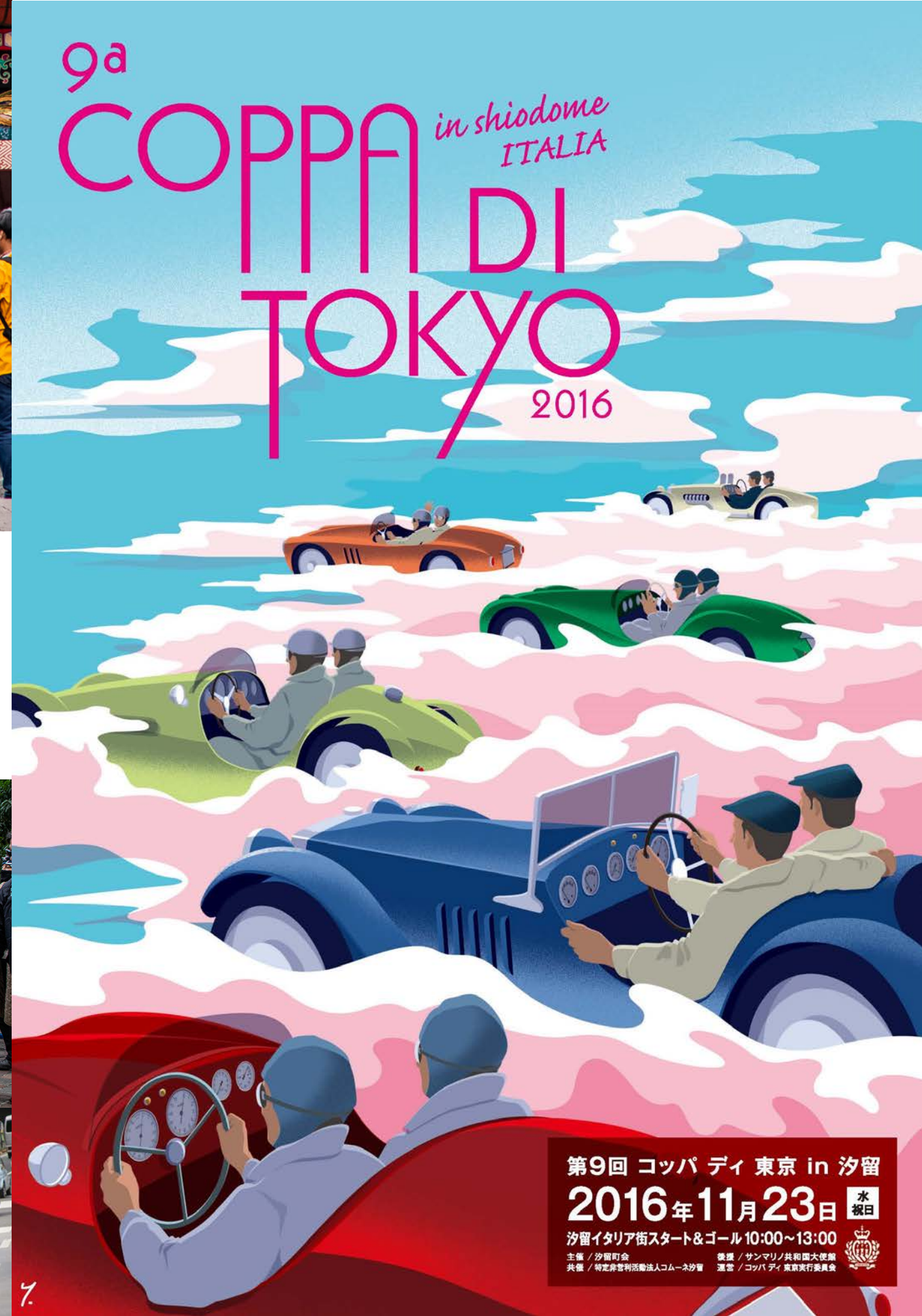
“優雅さの競争”を意とする「コンクール・デレガンス」は自動車文化先進国である欧米において、
絵画や彫刻のアートや伝統工芸が鑑賞され評されるのと同様に、自動車の芸術的価値を品評するイベントとして
認知され、華麗で伝統のある自動車文化として現在まで継承され続けています。数多くのコンクールの中でも
イタリアのコモ湖畔にある庭園公園「ヴィラ・デステ」で開催される「コンコルソ・デレガンツァ・ヴィラ・デステ」
は１９２９年から開催され、現存する最も古い「コンクール・デレガンス」として知られています。
久屋大通公園で開催する「Concorso d'Eleganza Coppa Centro Giappone」はこのコンクールの名に因んで命名しました。
優雅で美しいカーデザインのクルマ達が競演する会場のロケーションもまた、本場の「コンクール・デレガンス」
では由緒ある古城や公園、芝生に囲まれた名門のゴルフ場など風光明媚で情景が美しい場所で執り行われる様に、
久屋大通公園のローケーションを活かして日本最大級のPark-PFI事業として生まれ変わった都市公園の活用を目指
します。緑豊かな公園の木の木漏れ日や、陰影の映り込みはエクステリア・デザインの美しさをより一層に奥深い
ものとして際立たせる事でしょう。

※コンコルソ・デレガンツァ・ヴィラ・デステ

Parade
パレード

※　コッパ・ディ・東京

久屋大通公園がクラシックカー達による優美の共演の場である一方で、公園に並行する久屋大通ではクラシックカーやレーシング・フィールドで活躍するラリーの競技車両、次世代のＥＶ車両等々による公道パレードを開催致します。公園内のコンクール・デレガンスが“静”を愉しむ美術鑑賞と例えるならば、パレードは動く博物館。１９世紀、内燃機関を備えた自動車が発明されて以降、クルマは、より速く、より快適に、より安全に、そして自由に動かせる事ができるツールとして人々を魅了し続けてきました。その“動”の魅力は、音や振動、匂い、疾る喜びとその一体感、多種多様なクルマ達が醸し出す、かけがえのない個性と計り知れない感動そのものです。その一片をこのパレードでは披露致します。
今日まで自動車文化を脈々と継承してきた類稀なクルマ達、約１５０台が名古屋市役所をスタートして、久屋大通を経由し、ゴールの愛知県庁を目指します。



Future & Motorsports

自動車の未来とモータースポーツ

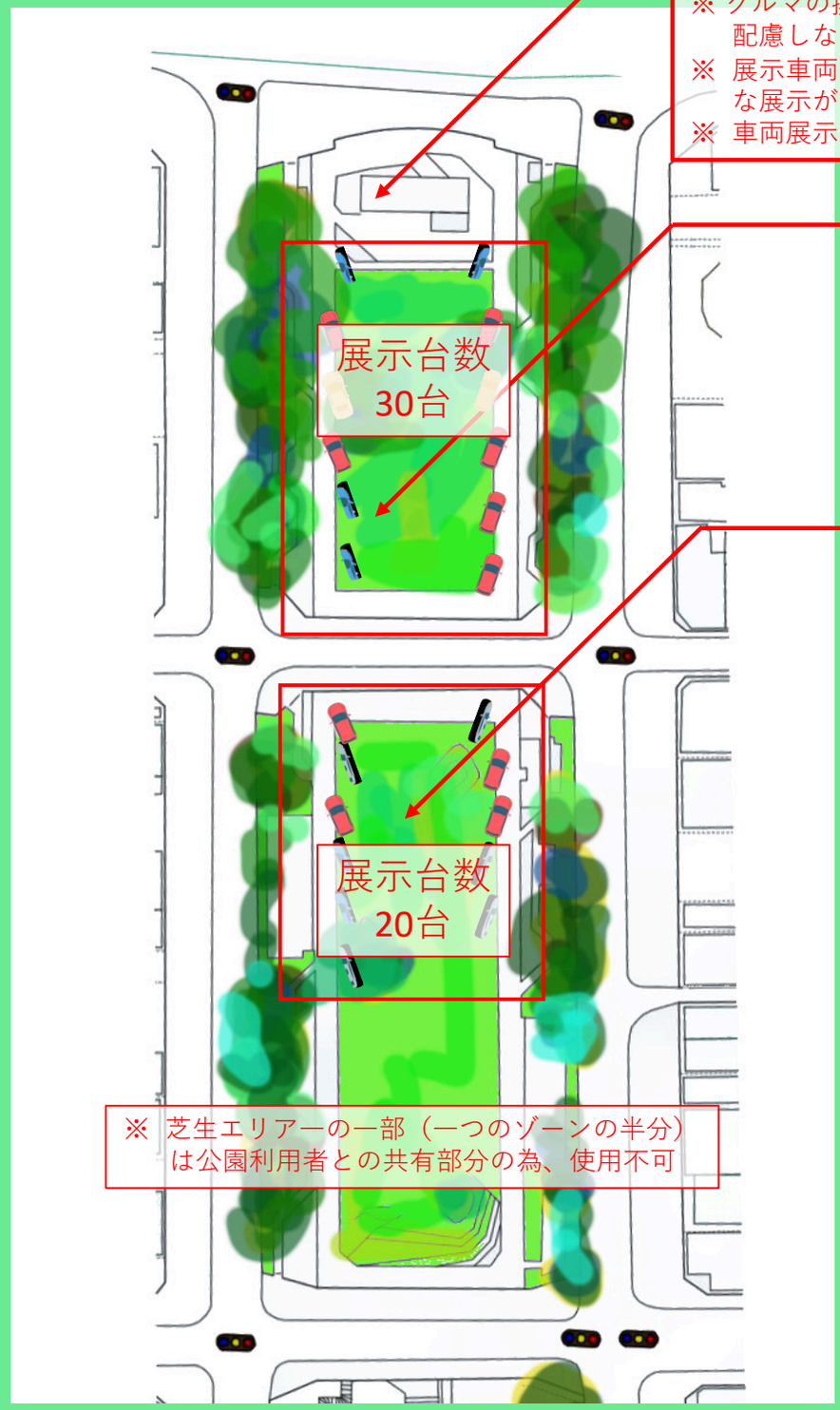
「Concorso d’Eleganza Coppa Centro Giappone」の会場となる、中部地方最大の商業地区、名古屋 栄が、１００年に一度の街の大変革期を迎えているのと同様に、愛知県の主要産業である自動車産業もまた１００年に一度の大変革期を迎えています。
次の１００年に向けて開発を目指す持続性がある魅力的な街づくりは、モビリティ化を目指す次世代の自動車産業とも強固に連携しなければなりません。
「自動車の明日」の披露は「調和と共生」を重んじた新たな社会様式の一片です。

「２０５０年カーボンニュートラル宣言」に基づいて、開発が進められる最先端のIT技術を駆使した次世代の電気自動車や水素自動車等々は、安全で、環境に優しい、コネクティドカーになる事でしょう。
その一方で「自分の意志で自由に移動したい、どこまで遠くに、誰よりも早く、美しく移動したい」という人間の欲求は不変的なものであり、次の１００年もクルマが徹底的に楽しいものでなければなりません。
それを実現してくれるクルマに対する人々の感情は、豊かで心ときめくものがあります。一見すると、レースやラリーといったモータースポーツのフィールドは、

我々の生活や暮らしと密着した市販車とは対極に位置する印象を抱かれがちですが、自動車史黎明期の時代より、自動車の進化は極限の世界でこそ成し遂げられ、エンジニアとクルマを鍛え上げてきました。
そこで培われたノウハウを、様々な制約の中でいかに市販車に落とし込む事が出来るか、挑戦する事がTOYOTA GAZOO Racingの目指すクルマづくりの位置付けです。
世界最高峰のモータースポーツ・フィールドで活躍するTOYOTA GAZOO Racing展示ブースでは「 心ときめく自動車産業の未来」を感じ取って頂ける事でしょう。

※ 天狼院書店とジョイントしCGクラブイベントを実施

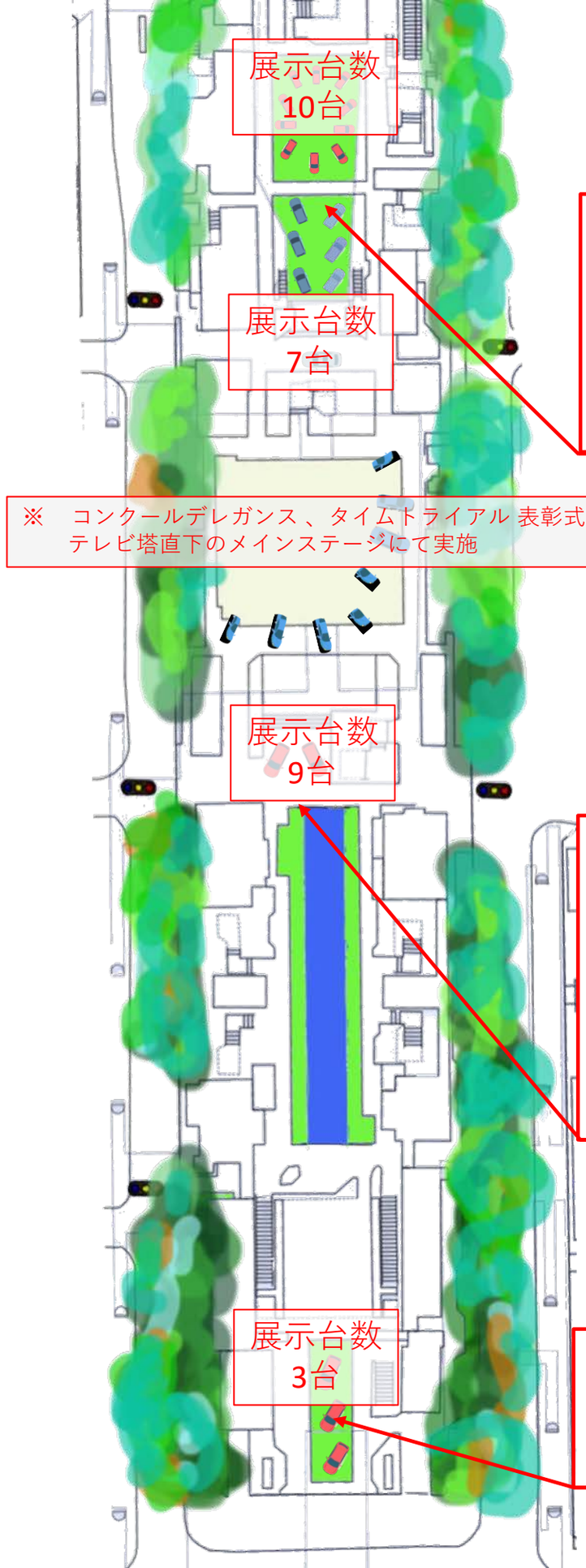
※ クルマの排気音、エンジン音を地域住民に特に
配慮しなければならない地域。
※ 展示車両と見学者の距離感が近づくオープンマインド
な展示が望ましい
※ 車両展示に柵等々を設けない



※ 配置図はイメージです。
実際の配置は公園の利用規約を遵守します

カーグラフィック創刊60周年特別企画「トリノ生まれのクルマ達」

日本のモータリゼーションの黎明期に創刊されたカーグラフィックは、日本の自動車の発展と歩を同じくして前進してきた。初代編集長の小林彰太郎さんは、愛読者にとって、その独特な文章のスタイルと共に、とても格好いい、憧れの存在となった。
孤高のダンディズムがあり、自動車ジャーナリストの範疇を超えたカリスマ的存在でもあり、日本の自動車への影響以上に多くの人へ自動車の楽しみを教えてくれた。
極端な言い方になるかもしれないが、日本の自動車文化は小林彰太郎さんと彼が創刊したカーグラフィックなければ、豊穣な環境にはなり得なかっただろう。たとえばこうして、日本の都市公園の中で、コンクール・デレガンスを開催出来ることも小林彰太郎さんとカーグラフィックが作り上げてきた環境が無ければ実現することも出来なかっただろう。
ここでは「CGの表紙を飾ったトリノ生まれのクルマ達」をテーマとして、本年創刊60周年を迎えたカーグラフィックをリスペクトし、名古屋市との姉妹友好都市イタリア・トリノのカーデザインの名門カロッツェリアから生み出された優美でエレガントな国内外のクルマ達を披露する。



※　コンクールデレガンス 、タイムトライアル 表彰式は
テレビ塔直下のメインステージにて実施

「ミニマムなECOカー＝バブルー」

第二次対戦後、モータリゼーション復興の時代、キャビンスクーター、バブルカー、マイクロカーと呼ばれる庶民の足が誕生した。モーターサイクルにボディカウルを被せたかのようなこの小さな小さなクルマ達は、現代のコンパクトカーの先駆け的存在で、誰でも簡単に運転をする事が出来て、安価で省資源、言うなればECOカーという言葉があてはまる。愛嬌のあるフォルムを纏っていた事からまるで泡のようだと“バブルカー”という愛称で親しまれた、ミニマムサイズの当時の実車をここでは披露する。

※　テレビ塔とコラボして
トリコロールの電飾を実施

「フレンチブルーのエスプリ」
「シャンゼリゼからの風」

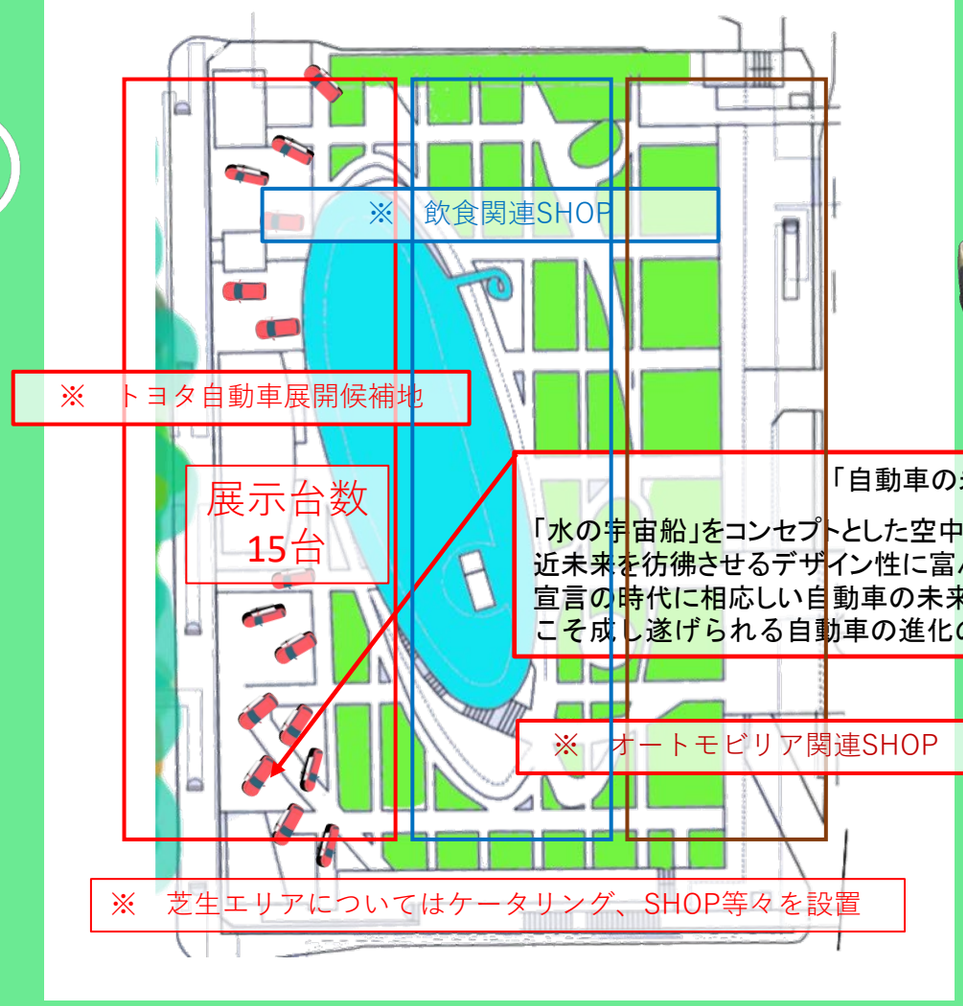
戦争復興のシンボルとして名古屋市民に愛され続けてきたテレビ塔は1954年に「東洋のエッフェル塔」と呼ばれた日本初の電波塔として開業し、隣接する久屋大通は1989年にパリ・シャンゼリゼ通りと姉妹友好提携を締結した。
テレビトーヒロバを活用したコンクールデレガンス・エリアもまた、フランス・ パリのエッフェル塔とシャンゼリゼ通りをリスペクトし、30年代～70年台の個性的なフレンチカーをテーマとした車両展示を行う。
「フレンチブルーのエスプリ」のテーマの展示ではフランスのモータースポーツの歴史においてルノーと共にラリーで名声をあげた、アルプスの名を纏ったスポーツカー、アルピーヌを、「シャンゼリゼからの風」のテーマの展示では、片田舎の農夫から、流行に敏感なパリジャンにまで愛され続けられるお洒落な大衆車、シトロエンの系譜を披露する。

「トヨタのWRCカー」

世界中の険しい道路環境で戦うラリーにはトヨタをはじめ各国の自動車メーカーが技術を磨く場としてチャンレンジをしてきた。
ここではライバルにチャレンジしたトヨタのWRCカーを披露する。

Layout Drawing

テレビトーヒロバ
ミズベヒロバ配置図案



「自動車の未来とモータースポーツ」

「水の宇宙船」をコンセプトとした空中庭園として親しまれる「オアシス21」エリアでは、近未来を彷彿させるデザイン性に富んだロケーションを活かし、カーボンニュートラル宣言の時代に相応しい自動車の未来をテーマに展示を披露、更には極限の世界でこそ成し遂げられる自動車の進化の一片をモータースポーツの視点から披露する。

※各配置図はイメージです。
実際の配置は公園の利用規約を遵守します

「フェラーリ・ジャパン（コーンズ）ブース」

久屋大通と大津通を直線で結ぶ、全天候型巨大ストリート「ラシックパサージュ」のイベントスペースを活用し、ここでは、自動車文化におけるスポーツカーの頂点、フェラーリのブースを展開しF1と最新のロードゴーイングモデルを披露する。

Layout Drawing

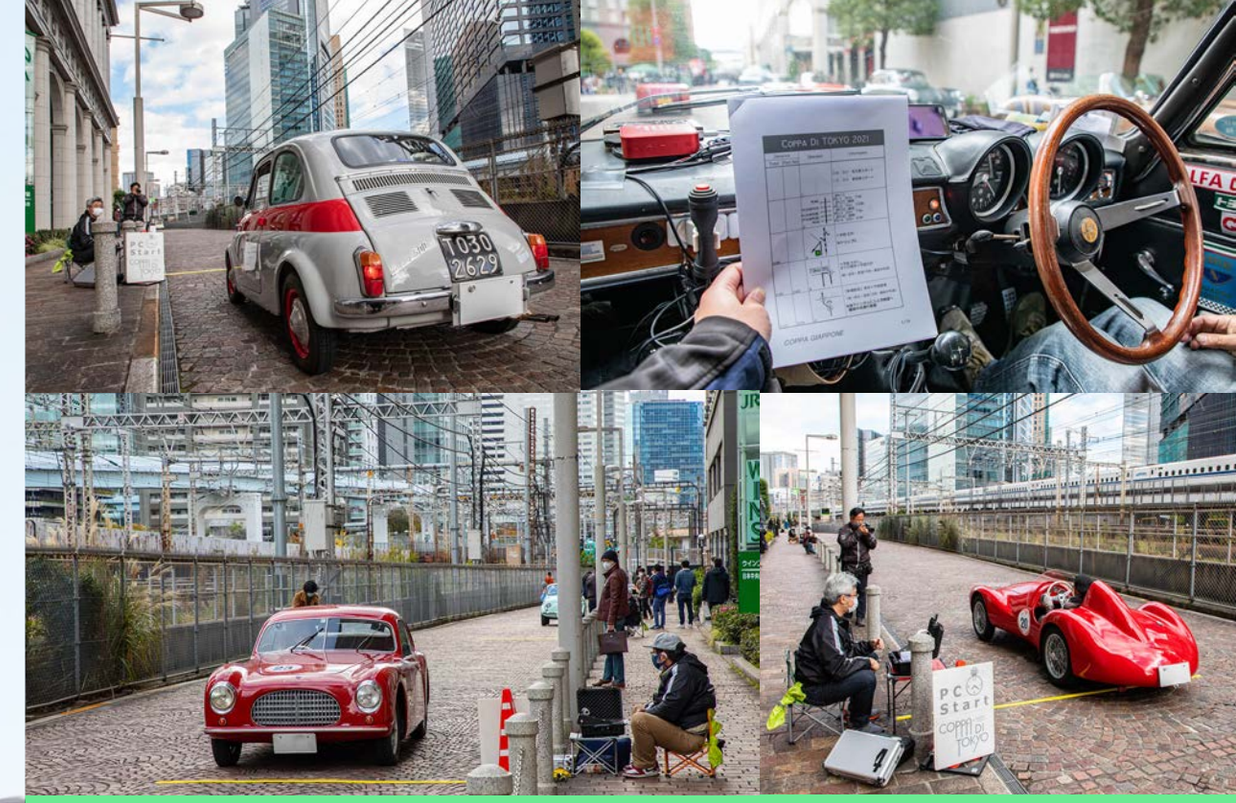
オアシス21
ラシック・パサージュ配置図案

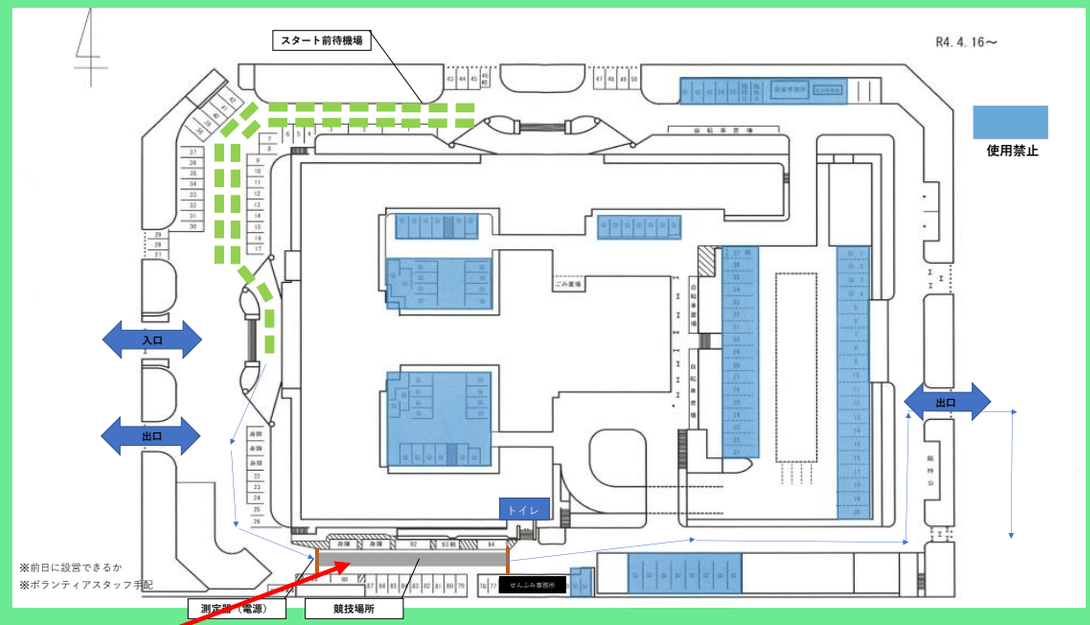
Sakae Gran Premio

名古屋市役所PC競技

「クラシックカー・ラリー」

公道クラシックカーラリーの最高峰とされる名高い大会として、イタリアで開催されるミッレミリアが挙げられますが、今日の日本でも、多くのラリーが開催されています。ラリーでは通常、運転手であるドライバーと補佐役のコ・ドライバーが2人一組で参加します。コ・ドライバーはドライバーを運転に集中させるため、ナビゲーションや競技の時間管理など、重要な役割を果たしています。ラリーにおいてはドライバーだけでなく、コ・ドライバーも主役と言えるでしょう。
またクラシック・カーのラリーは、スピードではなく技術力を競い合います。
決められた区間を設定された時間でいかに正確に走行することができるかを競うPC競技では、自分のクラシックカーを正確に扱う技術力が試されます。また、設定されたすべてのポイントで通過証明となるスタンプを押してもらい、全ルートを走り切らなければ受賞対象にはなりません。
その他、未公表のチェックポイントを設け、交通ルールの違反がないか等をチェックするシークレットチェックポイント（SCP）では、違反が確認されると減点となります。
クラシックカーラリーは、沿道の観衆の目を楽しませながら交通ルールを守って走り、自らも愛車との対話を楽しむレースです。





「PC」とはProve Cronometrateのこと。「線踏み競技」とも呼ばれるこの競技では「決められた区間を、設定時間にいかに近い時間で走行することができるか」を競い合います。
PCの競技場には測定するためのラインが敷かれており、車輌がそのラインを踏んだ瞬間を1000分の1秒単位で計測します。設定時間との誤差が0秒なら1,000ポイント、1秒なら200ポイント、というように、誤差ポイントが加算されます。最終的な合計ポイントにより、順位が決められます。
また、交通違反などがあった場合は、ペナルティとして獲得ポイントから大幅に減点されます。

Sakae Gran Premio

Schedule＆Course

※パレードコース案

スタート地点	名古屋市役所	※河村市長の旗振りでスタート	積算距離
名古屋市役所東口	左折		0Km
久屋橋交差点	直進		0.3Km
錦通久屋久屋	右折	①久屋大通公園会場、通過時にアナウンス	1.2Km
錦通大津	左折		1.4Km
南大津通商店街	経由	②南大津通商店街の協力により沿道旗振り等	
矢場町	左折		2.3Km
若宮南	左折		3.0Km
広小路伏見	右折		3.7km
広小路通商店街	経由	③広小路通商店街の協力により沿道旗振り等	
栄町商店街	経由	③栄町商店街の協力により沿道旗振り	
広小路久屋西	左折		4.7Km
久屋橋西	右折		5.7Km
大津橋	経由		5.8Km
名城公園南	右折	※駐車禁止継続等々の規制が必要	6.7Km
名城公園南遊園	左折	④公園内広場にてタイムトライアル競技（PC）	7.1Km
筋違橋	右折		7.5Km
名古屋城前	左折		8.4km
二の丸	右折		8.6Km
県警本部西	左折		8.7Km
県庁前	直進		9.2Km
ゴール地点	愛知県庁	※大村知事旗振りによりゴール	
駐車場	市役所、県庁、愛知県体育 等々の駐車場へ誘導		

※スケジュール案

※パレード参加台数は最大で200台とする
※約60～70台づつA～Cの3グループに分ける

グループA　名古屋市役所 集合時間　AM 7:30 ～
スタート時間　AM 9:00 ～　30秒毎に1台スタート
※Aグループ1号車より河村市長が旗振り
愛知県庁ゴール時間　AM 9:40頃 Aグループ1号車ゴール

グループB　名古屋市役所 集合時間　AM 10:30 ～
スタート時間　AM 12:00 30秒毎に1台スタート
※Bグループ1号車には大村知事が乗車
愛知県庁ゴール時間　AM 12:40頃 Bグループ1号車ゴール

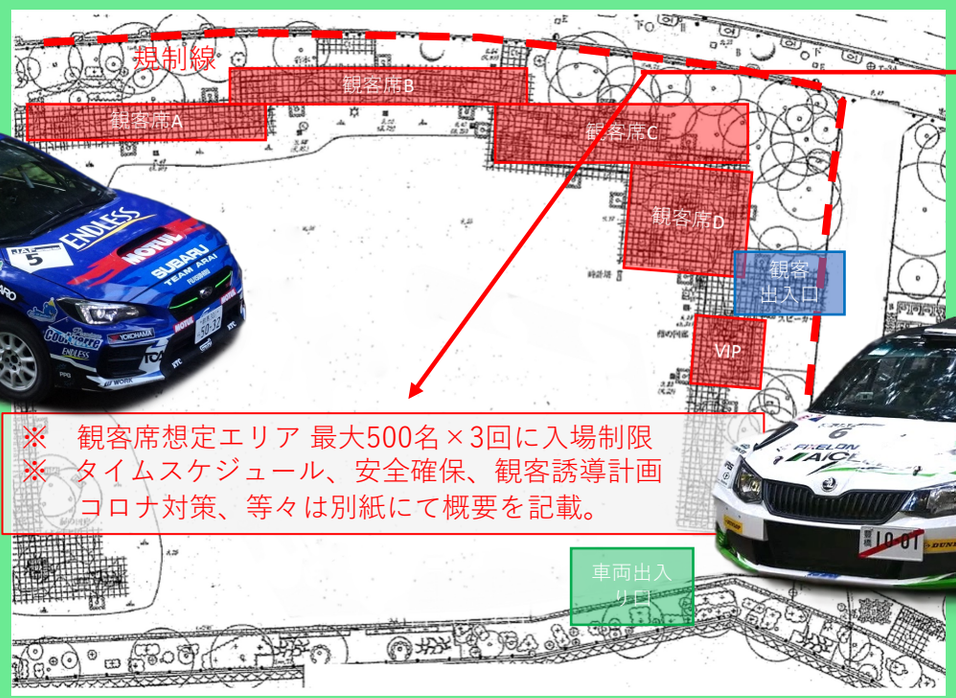
タイムトライアル競技各 グループ上位3名を表彰
テレビ塔ヒロバにて表彰式 PM 18:00～

Exhibition

名城公園南遊園
WRC＆全日本ラリーカー
エキシビション・ラン

「WRCカー、デモラン」

40年以上にわたりスプリントラリーの最高峰と位置づけられるFIA 世界ラリー選手権（FIA World Rally Championship＝WRC）は、ラリーが盛んな欧州や南米では、F1に勝るとも劣らない人気を誇っています。サーキットで争われるレース競技と違って、舗装路から砂利道、雪道に至るまで、様々な状況下の一般道をコースとしてタイムアッタクが行われ、速さと強さを競います。また、WRCに参戦する車両は全て市販車がベースとなり、年間2500台以上生産されている車両でないと参戦することができません。世界各国の名だたるメーカーは、新型車のテストや開発をし、人と車を鍛える上で最適の舞台と位置づけてWRCに挑み続けています。
そして本年、11月10日～13日には愛知県と岐阜県を舞台に世界ラリー選手権第13戦、「ラリージャパン」が開催されます。新型コロナの影響で2年間、開催が叶わなかった同レースには地元トヨタ自動車からTOYOTA GAZOO Racing World Rally TeamがGR YARIS Rally1 HYBRIDで参戦し勝利が期待されています。翌月へと迫った「ラリージャパン」の開催に先駆け、名城公園南遊園エリアでは、名古屋城を背景に本物のWRCカーと全日本ラリー出場車によるデモンストレーションランを実施します。



※　観客席想定エリア 最大500名×3回に入場制限
※　タイムスケジュール、安全確保、観客誘導計画
　　コロナ対策、等々は別紙にて概要を記載。

Concorso d’Eleganza
Coppa Centro Giappone
会場予定地 1 / 5
名城公園ロケーション

WRC ラリカー
エキシビションラン開催地

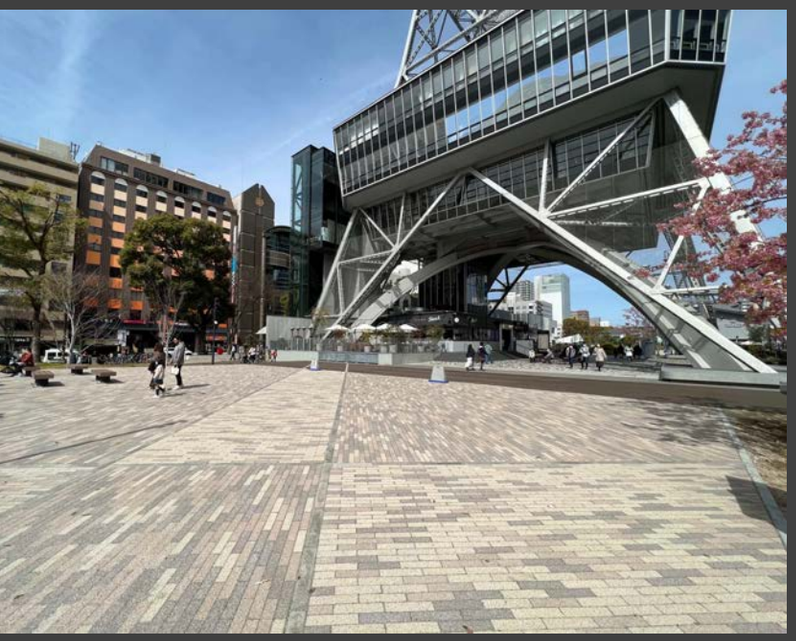
Concorso d’Eleganza

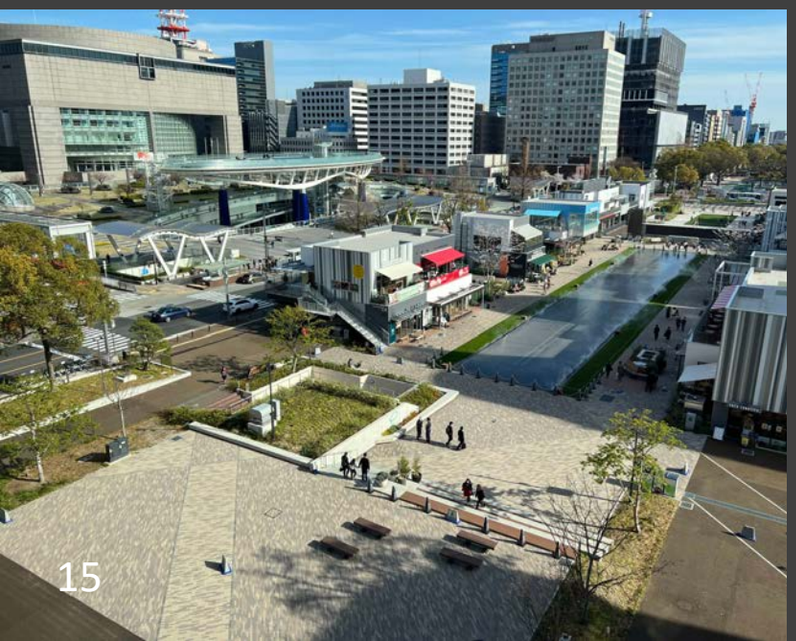
Coppa Centro Giappone

会場予定 2 / 5

シバフヒロバロケーション

※ コンクール・デレガンス開催地





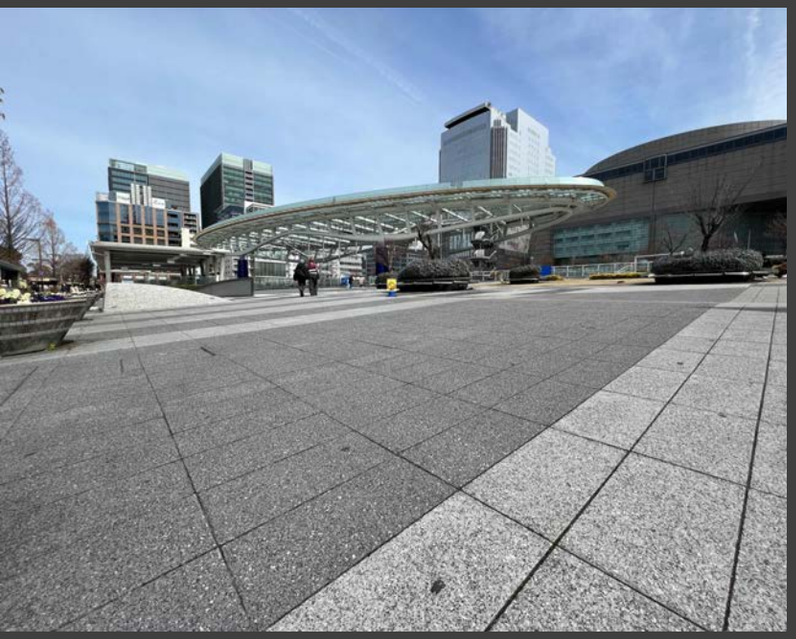
Concorso d’Eleganza

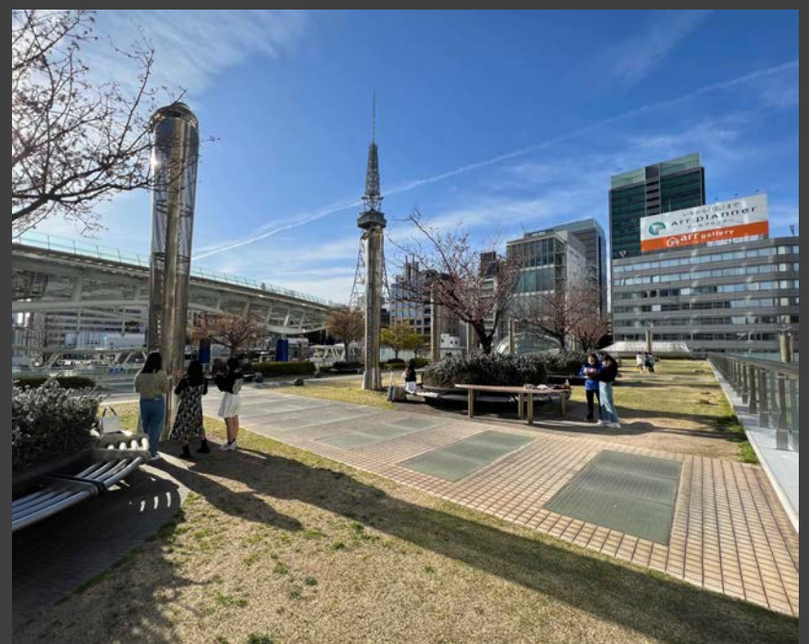
Coppa Centro Giappone

会場予定地 3 / 5

テレビトーヒロバロケーション

※ コンクール・デレガンス開催地
※メインステージ





Concorso d’Eleganza

Coppa Centro Giappone

会場予定地 4 / 5

オアシス21ロケーション

※トヨタ自動車 様 展開候補地

Concorso d’Eleganza

Coppa Centro Giappone

会場予定地 5 / 5

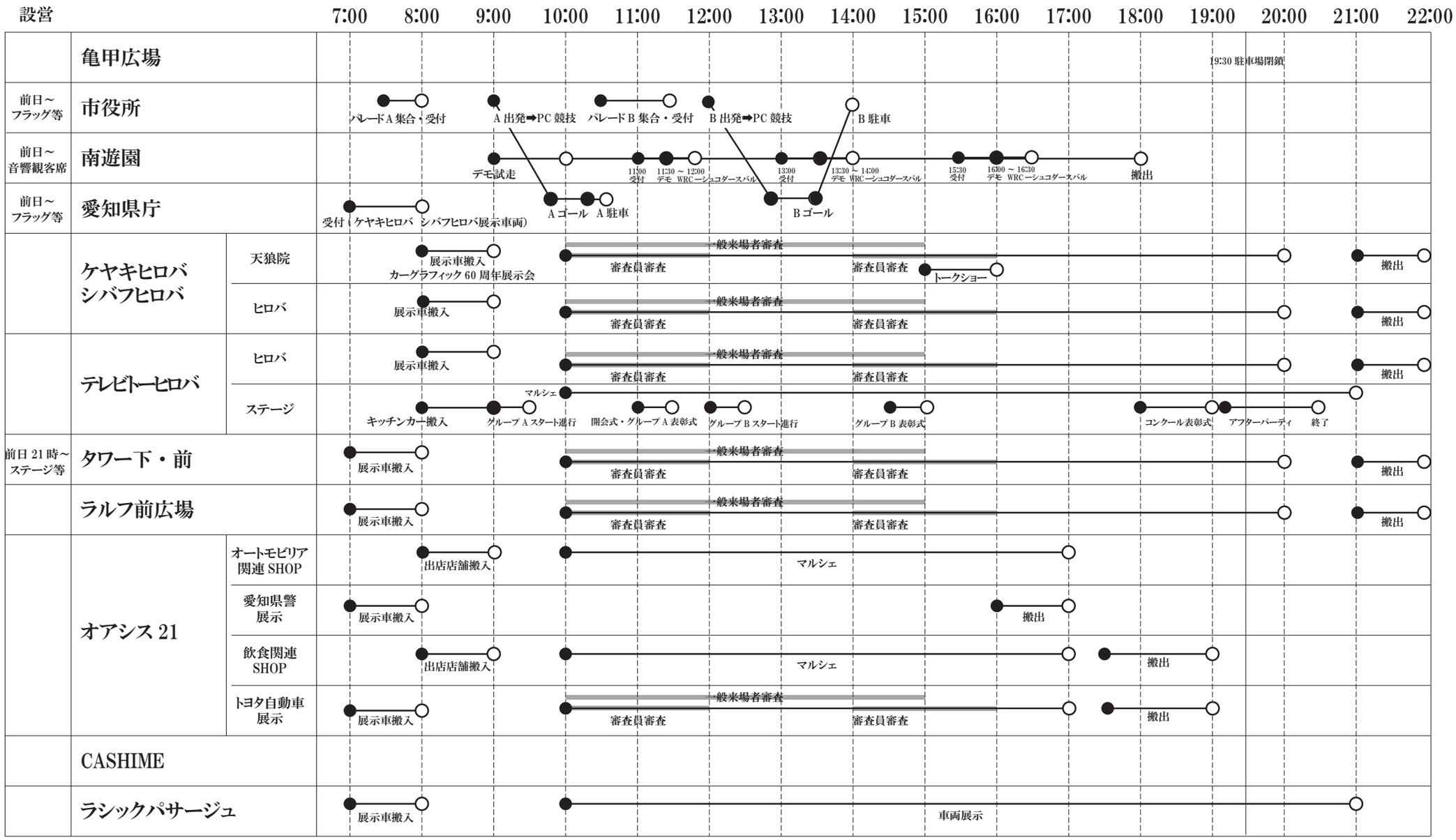
ラシック パサージュ

※フェラーリ展示会予定

Timeschedule

タイムスケジュール

当日タイムスケジュール



Overview

概要

Concorso d’Eleganza
Coppa Centro Giappone

概要

（1）運営目的

名古屋市が推進する「文化芸術推進計画２０２５」の理念に基づきアジア地区最大級の自動車のデザイン性を競うスタンディング・イベントである「コンクール・デレガンス」を開催し､国内外の自動車文化を通じて、観光、まちづくり、教育、国際交流、産業など様々な分野との連携で好循環を生み出し、都市の力を向上させることを目的とする。

（2）開催日

２０２２年１０月２３日 日曜日

（3）運営

Coppa Centoro Giappone 実行委員会

（4）規模

久屋大通公園内、シバフヒロバ、ケヤキヒロバ
テレビトーヒロバ、ミズベヒロバ 、名城公園南遊園
オアシス２１、ラシックパサージュ
以上を展示会場として
１００台程度の展示、１５０台程度のパレードを予定

（5）運営資本金

エントラント参加費用、行政補助金
後援企業・協賛金の規模に準ずる

後援・協賛・企業・団体（構想 順不同）

愛知県 / 名古屋市

栄町商店街振興組合 / 久屋大通発展会 / 栄公園振興株式会社
名古屋テレビ塔株式会社 / 株式会社セントラルパーク
ヒサヤオオドオリパーク・デザインセンター
ヒロバス運営委員会事務局 / サカエチカマチ株式会社
栄ミナミまちづくり株式会社 / 栄東まちづくり協議会
錦二丁目まちづくり協議会

カーグラフィック / 三栄書房 / オートカーデジタル
株式会社中日新聞 / 中京テレビ放送株式会社
名古屋テレビ放送株式会社 / 中部日本放送株式会社
東海テレビ放送株式会社 / テレビ愛知株式会社

トヨタ自動車株式会社 / フェラーリ・ジャパン株式会社
コーンズ モータース株式会社 / 株式会社NTB
株式会社サンデーフォークプロモーション
リキモリトレーディング株式会社 / 株式会社リアルト

名古屋芸術大学 / フレンチブルー・ミィーティング
チンクエチェント博物館 / 湘南ヒストリックカークラブ

株式会社名古屋三越 / タワーラウンジカシメ / 岩間造園
三井不動産株式会社 / トヨタ不動産株式会社

エイム株式会社 / オリエンタルビル株式会社